

2019年10月4日
 凸版印刷株式会社
 株式会社フレーベル館

凸版印刷とフレーベル館、
 障がい者アーティストの絵本作品『ぼく お父さん』を出版
 ～亡き父への想いを描き、夢を実現～

凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下 凸版印刷)とグループ会社である株式会社フレーベル館(本社:東京都文京区、代表取締役社長:飯田 聡彦、以下 フレーベル館)は、凸版印刷が推進する「可能性アートプロジェクト」における、障がい者アーティストの作品の価値化施策として絵本『ぼく お父さん』を両社共同で企画・出版し、2019年10月4日から出雲市内の今井書店と一部のネット書店にてフレーベル館より発売します。

凸版印刷は、2018年より「障がい者の自立支援」と「企業の人財開発」を組み合わせた試みとして「可能性アートプロジェクト」を推進しています。「可能性アートプロジェクト」は、凸版印刷の持つ「印刷テクノロジー」を活用し、障がい者アーティストの作品を価値化し、社会的課題解決(障がい者の自立)と経済的事業活動が両立するビジネスモデル構築を目指す取り組みです。これまでの障がい者アート作品の活用事例として、紙製飲料缶「カートカン」や卓上カレンダーへ採用・販売や、スマートフォンをアート作品にかざすと、作品が動き出すとともに、アーティストが作品に込めた想いを聴くことができる AR コンテンツの制作などの実績があります。また、これらのビジネスモデル構築を凸版印刷の企業研修プログラムとして採用し、次世代リーダーの育成にも活用しています。

今回、凸版印刷とフレーベル館は、アート創作活動を通して障がい者の自立支援を行う NPO 法人サポートセンターどりーむ(所在地:島根県出雲市、理事長:土江和世、以下 サポートセンターどりーむ)の協力のもと、サポートセンターどりーむに所属する周藤優子さんが描き下ろした絵本作品『ぼく お父さん』を出版します。作品が絵本になることは、周藤優子さんの長年の夢でもあることから、本作品を出版することで、周藤優子さん自身の夢の実現と、その素晴らしい作品の認知向上に寄与していきます。

凸版印刷とフレーベル館は今後も、両者の強みを生かしながら、社会的課題解決と経済的利益が両立するビジネスモデルを構築することで、障がい者アーティストの自立支援の拡充と、そのプロセスを通じた次世代リーダーの育成を推進していきます。

【絵本『ぼく お父さん』概要】



作・絵 周藤優子
 発行年月 2019年10月
 定価 1,200円(税別)
 サイズ 19cm×19cm
 ISBN 9784577048535
 出版社 フレーベル館

【あらすじ】

生きている間は、わかりあえなかったお父さんが
 ある日、ゆうこのところにやってきた

ぼくは ねこになって ゆうこと いっしょに 生きたい

発達障がいの作者が、作業所に入出入りするねこに、
 亡くなったお父さんを重ね合わせ、
 父への想いを綴った絵本

【著者紹介】



周藤優子
(すとう ゆうこ)

1972 年生まれ。

1993 年、兵庫県姫路市の短大を卒業。いくつか一般職につくが、長く続かず、周囲の人の言動を理解できなかつたり、自分の言動を理解してもらえなかつたりなど、コミュニケーションがうまくとれず悩んでいた。

2000 年、母にすすめられて病院で検査を受け、統合失調症と診断される。

2007 年、父の死を経て、

2012 年、サポートセンターどりーむのアート活動に参加するようになる。

2015 年、島根大学医学部附属病院で検査を受け、発達障がいとわかる。

* 本ニュースリリースに記載された会社名および商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上